

ポートランド留学体験配A ポートランド州立大学(学部交換留学)

経済学部 4 年 関 志保美

留学先 ポートランド州立大学 アメリカ西岸・オレゴン州

期間 2010年9月~2011年5月

期間 友達に誘われて何となく行っ た留学説明会で、一気に留学に興味 を持ち、気付けばアメリカでした。



仲の良かった3人で。本人は一番左。

- ・費用 ≫ 寮費合計40万円、航空券往復20万円、その他生活費は日本 とほぼ同じ
- ・レート≫1ドル85円、円高万歳!

≪一週間のスケジュール≫

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|----|------|----|----|-----|------|------|------|
| AM | 授業 | 宿題 | 授業 | 宿題 | まったり | 宿題 | のんびり |
| PM | 宿題 | 授業 | 宿題 | 授業 | 友達とお | ジム | 宿題 |
| | ジムで運 | 宿題 | ジム | 飲み会 | しゃべり | お買い物 | |
| | 動 | | | | | 飲んだり | |

≪留学前後のスケジュール≫

| | 留学前 | 留 | 留学後 | | | | |
|--------|----------|--------------|------------------|--|--|--|--|
| | 英語の勉強 | | 留学報告 | | | | |
| スケジュール | TOEFL 受験 | 学 | ボランティア | | | | |
| | ビザ取得 | 1 | 親に感謝する | | | | |
| | 引っ越し | 中 | 留学でお世話になった人に感謝する | | | | |
| | 荷物準備 | | のんびり休む | | | | |
| | 出発飲み会 | | | | | | |

■とにかく留学させてください

私は高校生の時から漠然と留学したいと思っていましたが、大学に入って2年経っても その気持ちを何となく持ったまま、体育会水泳部の部活に明け暮れ、毎日選手のタイムを 計ったり、ドリンクを作ったり、ご飯をおごったりおごってもらったりしていました。つ まり、英語の勉強に関しては結局何もせず過ごしていました。

そんなある日留学を目指していた友人から留学説明会に誘われ、そこで話を聞いたとき何かスイッチが入ったように留学したいと強烈に思うようになりました。それまでTOEFLの勉強など全くしていなかった私は、まずは交換留学の学内選考を通るための英語力を身につける必要がありました。参考書を中心に勉強はしてみたものの、ゼミや部活・アルバイトなど他にもやらなければいけないことが山積みでした。そのため、結局第一志望だったカナダは、学内選考で落ちてしまいました。面接試験では、赤毛のアンのことばかりひたすらしゃべりましたが、同席した指導教員にすら「赤毛のアンへの熱意は分かりました」という評価コメントしかもらえないほどお粗末なものでした。今思えばやることが多すぎると思い込んでさぼったりしていたので、当然の結果だったと思います。

しかし、その後も何度か TOEFL に挑戦してみて、ぎりぎりでポートランド州立大学 (PSU)に行かせていただけることになりました。ちなみに、申請時点の点数は基準点にわず かに欠けていたのですが、面接で broken English と言われながらも英語でしゃべり続けた 度胸と伸び代をなんとか評価していただけたのだと思います。アメリカへ行けることになったのは幸運でした。

■準備はいつだって面倒

出発準備と言っても特に大変なことをやらなければいけない訳ではないと思います。寮に送る荷物の準備と、航空券の手配、パスポートとビザの申請、保険の加入ぐらいです。 どれも面倒ですが難しいことではありません。私の場合は一人暮らしだったので荷物を全て実家に送り、部屋を引き払いましたが、それも面倒なだけで大変なことではありません。 でもすごく面倒なので、早めにいろいろやることをお勧めします。

よく留学の荷物準備の時に、たくさんの日用品を持っていこうとする人がいますが、(特に先進国であれば)日本と同等のものはなんでも手に入るので、特に持っていく必要はないと思います。海外に荷物を送るのはものすごくお金がかかることですし、現地のスーパーや薬局でのお買い物は女の子にとって至福の時となります。ただし、私の場合は年中ダイエットしているので、体重計だけはちゃんと kg で計れるものを持っていきました(アメリカはポンド)。

後は友人や家族と別れを惜しむのに一番時間とお金をかけました。ここでほかほかな思い出をたくさん作っておくのは、この後の寂しさと不安を乗り越えるために重要です。遊びすぎて毎日二日酔いになるのもまた一興です。

■ホームステイとママさん

私は授業が始まる1ヶ月程前にアメリカに行き、ホームステイをしました。これはかなりいい選択だったと思います。まずはアメリカで困った時に頼れる人もできたし、授業前の英語の練習にもなり、何より気持ちが楽になりました。

私のホストファミリーは強烈なママさんがいる家だったため、土日で滝を9カ所見せてくれたり、海で本気すぎる砂のお城を作らせてくれたり、ハイキングさせてくれたりして、とても疲れました。・・・いえ、とても楽しかったです。彼らの少しずれた不思議な雰囲気が大好きで、この家族とは留学が終わってからも連絡を取り合っています。

ただあまりにもバイタリティにあふれたママさんだったため、ホームステイ終了時には若干へろへろで、寮に移れてほっとした気もしました。また、ステイ先から大学は遠いことが多いため、授業が始まってからは寮生活の方がいいかなと思います。



写真はサンクスギヴィングの時のもの。親戚も集まって、七面鳥などとにかくお腹いっぱい食べまくれと言われ、美味しくいただきました。寮に移った後もこういった行事に誘ってもらったりして、アメリカの家庭の雰囲気も味わうことができました

■勉強しました

もちろんですが、留学中はとてつもなく勉強しました。周りの学生もすごく勉強するので、自然と頑張るぞーと意欲がわいてきます。留学で履修した授業は以下の通りです。授業数は少ないですが、授業時間が長く宿題も多いので、ネイティブの学生でも大体同じぐらい履修するらしいです。春学期は、東日本大震災で帰国を早めたために単位を諦めましたが(後述)、秋・冬学期は全て単位を取ることができました。

秋学期:マスコミュニケーションと社会、ドローイング、ライティング

冬学期:広告論、デジタルデザイン、ペインティング 春学期:国際文化論、アジア美術論、西洋美術史

■とある授業の一コマ その1

授業の終わりにお相撲さんみたいな先生が、コーラを飲みながら、

「じゃあ、次週は3章と4章の小テストやるからちゃんと読んどいてねーん」

と言っていたので、範囲を確認したら合計約 100 ページ・・・。それから毎日図書館の閉館ぎりぎりまでねばって頑張りました。飛ばし読みしつつも、なんとかテストを乗り切った後。今日から遊べると私はうきうきしていました。そんな中、相変わらずころころした

先生はコーラを飲みながら、「じゃあ、次週は5章と6章の小テストだからねーん」 とサラッとおっしゃいました。ごっつぁんです。

■とある授業の一コマ その2

アメリカの授業では先生が生徒に意見を求めることはよくあります。大抵の場合、間髪 入れずにシュババっと手が挙がります。そして学生さん達は先生と対等の立場です。先生 に質問すると「それはだね・・・」と、別の生徒が普通に解説し始めるなんてこともあり ます。だれが先生ですか、と影で突っ込んでみたくなることもあります。

この生徒と先生の積極的なやり取りになんとか入る、というのが私の最終目標でした。 結局達成されたのは美術の授業で絵に対する意見を言ったのみで、難しくてかっこいい知 的な発言はできないままに終わりましたが、あの時手を挙げられた私を今でも頑張ったね と労いたくなります。

■勉強のコツ

いろいろ書きましたが、正直のところ、先生 が言う通りちゃんと勉強ばっかりやっていたら 留学は楽しめません。あまり良くないことかも しれませんが、ある程度教科書は飛ばし読みして、ささっと宿題を終えて、しっかり遊ぶことも大切です!泣いても笑っても留学はいつか終わり、勉強してもしなくても何かしら学ぶこと はあると思います。



ある日本人で勉強しなさすぎで強制帰国にな

った方がいましたが、そうならないように「ある程度」勉強して、一応良以上の成績が取れればいいんじゃないだろうか。そう思いながら勉強していました。

上の写真は一番仲の良かった韓国人のスーギーとアメリカ人のモニカ。テストが終わった

後は3人でアイドルの動画を見るなどして、とにかくストレスを発散させていました。

下の写真二つは 冬休みと春休み にサンディエゴ とニューヨーク に行った時のも の。





■ルームメイト問題

留学はほぼ成功に終わったと思うのですが、1%の問題点を言わせていただけるならば、 私はルームメイトが大嫌いでした。

最初の1学期は問題の彼女とは別のルームメイトと住んでいました。彼女は明るいアメリカ人で一緒に楽しく暮らしていたのですが、途中でママになってしまったため、部屋を出て行きました。そしてその後来た二人目のルームメイトが私とは全く合わない子で、本当に大変でした。私が悪かったのか彼女に問題があったのか、(私の視点では圧倒的に彼女の問題だと思うのですが)、飲酒問題や、火災問題、盗難問題など、たくさんの傷跡を残してくれました。逆に仲が悪すぎて部屋で話す必要がなくて楽だったとも言えるのですが、後半は部屋にいてもストレスが溜まるだけだったため、ほとんど部屋に寝に帰るだけになるように頑張っていました。

唯一にして最大とも言えるルームメイトとの不仲問題でしたが、こんな人もいるのだな と今となってはいい思い出です。問題が付きものである留学で、こんなに自分を成長させ てくれる相手と出会えたことを、幸運にも思えるような気もします。

■文化の違い

文化の違いは当然のごとくあります。まず教室に入る時に、少し先を歩いていた人がずっとドアを開けて待っていてくれたり、帰りにスーパーに寄ったら店員さんが普通に歌っていたり、そしてウィンクしてきたり。長くいても毎日おどろくことがあり、いいところも、ちょっといただけないところも、その全てが楽しいです。私にはカルチャーショックは来なかったのですが、日本とのいろいろな違いを何でも楽しめば大丈夫なんじゃないかと感じました。

■東日本大震災

私と同じ時期に留学した人たちにとって、そして実家を仙台にもつ私にとって、この災害による影響は相当なものでした。友人から「日本で大きな地震があったって聞いたけど大丈夫?」と言われ、地名が Sendai と聞かされた時は血の気が引きました。それ以降は勉強している時も、友達の家に泊まりにいっている時も、常に ustream で地震速報を聞き続けました。ちょうど期末テストの期間と重なったのですが、勉強など手に着きませんでした。Skype で両親の顔を見ることができてからはなんとか持ち直しましたが、もう日本に今すぐ帰りたいとしか思えませんでした。

その後たくさん悩みましたが、留学期間を短縮し、学期の途中で帰国し災害ボランティアをすることに決めました。交換留学生にも関わらずわがままで途中帰国などして、きっと双方の大学から怒られるだろうと覚悟しました。が、ポートランド大学の対応は非常に親切で、北海道大学も被災地でのボランティアを公式に後押ししてくれました。本当に感謝しています。

■チャリティー美術展

帰国を決定してから日本に帰るまで、2ヶ月程の期間がありました。授業には出ていましたが、単位は取れないことは最初から分かっていたため、あまり身が入りません。相変わらず日本の状況も気になります。いてもたってもいられません。そこで思いついたのがチャリティーを目的とした美術展兼オークションでした。

これまで美術の授業は何個か取っていたため、そこで知り合った先生や生徒にオークションにかけてもいい作品を提供してくれないかと、とにかくメールを送りまくりました。 反応は意外にも良く、たくさんの人が作品を提供してくれました。PSU内の大きなギャラリーを借りることもできました。ただ、最初のうちはたくさんのアーティストの連絡や諸々の手続きを全て自分でやっていたため、一度挫折しそうになりました。もう全部投げ出し



て日本に帰ろうか・・・。と危ない考えがよぎった 頃に、友達が助けてくれ、そこから会場設置や寄付 の手続きなどいろいろなことが前に進み、実現する ことができました。

この美術展では、ポートランドで活躍する華道家 や書道家の方にも協力していただき、PSU 自体も さまざまな形で支援してくださったので、とてもい い展示会となりました。たくさんのアーティストに

私達の活動を応援していただいて、涙が出そうな程嬉しい言葉を何度もかけていただきました。結果、震災から2ヶ月経った後での展示会でしたが、二日間で13万円以上の寄付を集めることができ、少しでも被災者の力になれたのかなと思います。

■最後に

留学には人それぞれ色々な形があると思います。行動派、慎重派、努力家、天才肌、積極的、内向的、その人に合ったベストの留学があり、どうするべきかというルールはないはずです。夢や希望を持って行ってもうまくいかなかったり、ひょんなことから儲けたり。そんな留学なのだから、考えすぎずにとにかく自分の思うままにやるのが良いと思います。周りがこうしているから・・・などと考えずに、やりたいことをしてください。義務感にとらわれずに、楽しんだ方が勝ちです。

それから、「習うより慣れろ」「一寸先は闇」という言葉を心に留めておけば、大体のトラブルによる精神的ダメージは軽くなるので、ぜひ覚えておいてください。

留学を考え中のあなた、とにかく応募しないと損ですよ!これから留学行く皆さん、少し大変だけどとっても楽しいので、全力で頑張ってください!

《留学アンケート》

① おすすめ(ガイドブックにないスポット、観光地、店、お気に入りの場所、食事 etc.)大学内にあるイタリアン系の飲み屋さんは安くてとっても美味しかったです。行き過ぎて、お店の人に顔を覚えられました。三郎というお寿司屋さんはめちゃめちゃでかくて美味しいです。皆さん、体重増加にはくれぐれも気をつけてください。留学仲間はみんな太りました。

大学から車で30分くらいの所にある、ウッドバーンアウトレットは海外の有名ブランドがものすごく安いアウトレット価格で買えます。コーチのバッグが1万円とか。

② マナーやタブー

特に気をつけることはなかったように感じます。むしろ日本の方がマナーがきつい気がするので、授業態度とかは驚くことが多かったです。

③ 持っていってよかったもの(重宝したモノ、喜ばれた日本のモノ、ウケた特技 etc.) 日本の食べ物。ふりかけはウケが良かったです。

ボイスレコーダー。電子辞書。

水着。ものすごく設備のいいジムとプールがあったので。

④ 留学前の必見本 or ウェブサイト

留学応援サイト QUO VADIS http://terry75014.blog85.fc2.com/ は必見です。これを読んで実践すれば、可憐な女の子でもバックパッカー並みのタフな留学ができます。